

みかわや ポッドキャスト

インターネット上で聴くことができるラジオ（ポッドキャスト）を店内で収録している。浜松市尾張町の交差点から今の街の様子を発信。番組のコーナーは、街角の女性、街角の国際人、街角のマイブームなど。交差点の信号待ちをしている人や店舗にやってこられた方々をゲストとしてお迎えして、街角から生まれていく会話を音声にしてお届けしていく。

街角の女性

文芸大に通うリサコが浜松市周辺で活動するキナナル女性達とお話を伺う。

街角の国際人

浜松市在住で外国にルーツを持つ方々をゲストにお迎えします。英語と日本語のバイリンガルで放送予定。

街角のマイブーム

交差点で信号待ちをしている方々にお声かけて最近ハマっている「マイブーム」を3つをお聞きして会話を楽しみます。小学生からお年寄りまで、誰でも番組に参加可能。

Instagram

@mikawaya_podcast

みかわやポッドキャスト更新中！

みかわやポッドキャストは
どうやって聴くの？

- ①Googleで「浜松市 みかわや コトバコ」で検索
- ②お店のホームページ内で、番組を拝聴可能



壁面のガルバ波板、引戸のポリカウインカーボ。建物の角の斜めラインを借用。



新旧混ざり合う空間の象徴としてのテーブル。制作はAtelier Rの今泉さん。

この街で10年来ずっと閉まっていた建物が再び動き始めるとき、その多くは（とても残念だけれども）とり壊れて駐車場になってしまふ。2018年の末頃、この建物のシャッターが部分的に上がっていたのを見掛けたとき、正直に言うとういよいよこの建物も無くなってしまふのかなと思っていた。ところが意外なことにもそうとはならず、さらには巡り巡って最終的に僕が店舗のデザインを請け合うことになろうとは。この世界はありとあらゆる組み合わせの複合施設で溢れかえっているけれども、食堂と製本所、家づくり相談所に加えてスポーツマネジメント事務所という組み合わせは、きつと世界初なのではないだろうか。こんなにも異なるセットアップが面白くならない訳がないと、依頼を受けたときからすでに勝馬に乗った気分だった。あわよくばこの場所が、色々な物事が行き交う交差点になりますように。そんな願掛けをこっそりしながら、杉板と金属板とポリカーボネートの斜線が入り混じるおらかな空間を設計してみた。（とても上手くいったと思う。）

みかわやのデザイン
この街で10年来ずっと閉まっていた建物が再び動き始めるとき、その多くは（とても残念だけれども）とり壊れて駐車場になってしまふ。2018年の末頃、この建物のシャッターが部分的に上がっていたのを見掛けたとき、正直に言うとういよいよこの建物も無くなってしまふのかなと思っていた。ところが意外なことにもそうとはならず、さらには巡り巡って最終的に僕が店舗のデザインを請け合うことになろうとは。この世界はありとあらゆる組み合わせの複合施設で溢れかえっているけれども、食堂と製本所、家づくり相談所に加えてスポーツマネジメント事務所という組み合わせは、きつと世界初なのではないだろうか。こんなにも異なるセットアップが面白くならない訳がないと、依頼を受けたときからすでに勝馬に乗った気分だった。あわよくばこの場所が、色々な物事が行き交う交差点になりますように。そんな願掛けをこっそりしながら、杉板と金属板とポリカーボネートの斜線が入り混じるおらかな空間を設計してみた。（とても上手くいったと思う。）



なぜだか毎週食べたくなる！
屋台で多幸感インドカレー

ダンカリー

肴町Little (営業時間はインスタから)
Instagram: @dan_indian_curry

【編集後記】

去年は都会に出てインターンをしたかった。けれど、コロナが重なり路頭に迷ってました。何かを得たくて焦っていた私は遠くに手を伸ばすことばかり考えがちだったけど「今・ここ」に目を向ければそこにもものすごい可能性が広がっていることを、みかわやを通して教えてもらいました。ここから始まります！（リサコ）

高校まで過ごした浜松を飛び出し、イタリア、メキシコ、東京、ロンドンを経て17年後に地元に戻ってきました。あの頃描いていた未来とはだいぶずれているような気もします。コロナ禍はいつまで続くだろうかと不安に思うことはあるけれど、あまり計画的な人生を歩んできたわけではない、目の前のことをやってきたじゃないか。交差点で偶発的に集まった仲間達とやれること頑張ります！（竹山）

みかわや 1号

発行：みかわや | コトバコ

発行日：2021年1月1日

編集：竹山友陽・今村理沙子

写真：鈴木陽一郎

デザイン：村下亜沙美

みかわや | コトバコ

〒430-0949

静岡県浜松市中区尾張町126-1

[ホームページ]

<https://mikawaya-kotobako.com/>



浜松
尾張町

みかわや

1
2021年
創刊号



みかわや | コトバコとは？

「みかわや | コトバコ」は静岡県浜松市尾張町で商いをしていた三河屋の建物と屋号を受け継いだ。浜松市リノベーションスクールの取り組みの中で現管理人の大端将さんを中心に2019年5月に母屋と離れの清掃活動を開始。「三河屋」がゆるやかに分解され、使えそうなものを残し新しいものを取り込みながら食堂・製本・野菜・本棚の複合施設が始まった。日本各地において空き家問題が社会課題として取り上げられているが「みかわや | コトバコ」での活動がこの問題



を考えるきっかけになればと小さな一歩を踏み出した。

複合店舗（食堂 製本 野菜 本棚）は1年半をかけて改修作業を仕上げた。大きな資本が入ることではなく、徐々に仲間が集まり始め基本的には自分たちの手で作業を続けてきた。偶然の産物のように、多様な価値観が混ざり合う場所になれば良い。

新聞の創刊にあたって

「ここで、どんなことを始めるの？」閉じられていたシャッターが上がると近所の方々に声をかけていただく機会が増えた。つぎに、準備中のお知らせをガラスに貼ると通行人の方々はとても丁寧に読んでくれた。街角の新聞として地域住民との会話のきっかけになるよう創刊が決まった。今号は入居している事業者の方々へのインタビュー特集。みかわやで働く人々を紹介していく。季刊にて発行予定。また取材模様は、ホームページにてみかわやポッドキャスト（インターネットラジオ：詳細は裏面）として発信している。

街角のイベント

「角コーヒー&おやつ」の紀行」

毎週 月曜日～木曜日 朝8時～10時
尾張町の街角にて、うっかり営業を始めてしまった曇気楼のようなお店「角コーヒー」。12月からは、神戸からやってきた放浪するお菓子屋「おやつ」の紀行」が加わってパワーアップしました！毎朝まちを行き交う皆さんを眺めながら、虎視眈々とコミュニケーションをとるチャンスをうかがっています。月から木、朝8時から2時間だけのモーニングコーヒースタンド、電気が付いていたらお声がけください！*年明けは1/4（月）から営業

「街角製本展」

1月12日（火）～30日（日）
参加者の方が製本教室で作った本を展示します。展示期間中は製本教室で作った本を見られるほか、製本教室の様子をまとめた冊子を配布します。参加できなかった方も「本」について何か考えるきっかけになれば幸いです。お気軽にお越しください。
・入場無料・9時～18時・期間中無休
・最終日は17時まで

「みかわや古道具市」

1月12日（火）～30日（日）
しばらくの間手付かずになっていた裏庭の倉庫を大掃除した際、様々な古道具や雑貨、使われないままデッドストックとなっていた未使用のレトロな食器などが次々に出てきました。それらを倉庫内にディスプレイ&販売します！価格は¥100～¥300くらい。お気に入りの掘り出し物を見つけに、ぜひ遊びに来てください！
・入場無料・9時～18時・期間中無休
・最終日は17時まで

「みかわやLab」

1月18日（月）よりオープン
毎週月曜18時～21時 大学生が運営するプログラミング自学カフェ 「プログラミング？興味はあるけれど何を勉強すればいいの？」大学で専門的に学ぶスタッフに気軽に質問できます。社会人の自学習をサポート。みかわやLabでの勉強会から新しいものを生み出していきます。
・入場料：大人1000円（ドリンク代別）
・問合せ先：インスタグラム @mikawayalab

*上記以外の最新のイベントや詳細はみかわや | コトバコのホームページをご覧ください。

みかわやサポーター募集

街角から新聞とラジオを継続して発行していくために活動を支えてくださる個人・法人の「みかわやサポーター」を募集しています。年4回発行。広告主様、サポーター様への詳しい情報をホームページに掲載しております。



街角の食堂

KIZUKIの食堂は発酵食を取り入れた食事を提供されている。運営している大村智子さんは食堂の味を「特別ではなく、普段のご飯を提供しています」と謙遜しているけれど、日替わり定食の味つけの中には、心温まるおいしさが詰まっている。

「お出汁をひく。ぬか漬けに手を入れる。毎日こうしてご飯作りが始まります。地元の食材を多く使い、安心なものを味わっていただきたい」と大村さんが語るように、日頃の食事の大切さを再発見させてくれる。

大村さんは、みかわやでの活動以前は浜松市蛸塚にてコミュニティカフェ（jimicen）を運営されていた。「智ちゃん（大村さん）、いますか？」彼女の手柄に惹かれた以前のお店の常連さんたちが次々に訪れる。「食事を提供することによって繋がるコミュニティを大切にしていきたいと思います。」店内では料理をおいしくする発酵調味料や、素材の味を活かした商品も製造販売されている。



場所：みかわや | コトバコ
[ランチタイム] 11:30~13:30
[カフェタイム] 13:30~16:00
●予約優先 (<https://mikawayya-kotobako.com/>)
●営業日や食事の予約は、ホームページの食堂予約ページからご予約ください。
[メニュー]
日替わり定食 1,000円 / 子ども定食 500円

街角の野菜市

毎週金曜日10時から12時にオープンしている野菜市を運営されている森定次郎さん。生産農家から直送されてくる葉物、根菜、果物などを、「採れたて野菜市」としてみかわやで販売している。野菜の移動販売の仕事をはじめたきっかけと活動目的を次のように説明してくれた。

「生まれは大阪ですが、仕事の都合で浜松に来て20年近くが経ちました。買物に困った方々への事業をしているNPOから独立して9年目になります。野菜の移動販売、ご近所マーケットの活動目的は3つあります。①買物するのに困っている方に野菜などをお届けする②主に浜松の農家さんから野菜を仕入れ、地産地消を推進する③お客さんに来てもらう



ことでコミュニケーションの場を作る。」みかわや店頭にて毎週金曜日の朝10時からお昼まで営業している野菜市はご近所の方々が賑わっており、みかわやで一番の人気店舗になっている。

開催場所：みかわや | コトバコ
営業時間：毎週金曜日10時～12時
お問い合わせ：「ゆめ・浜松・食つなぎ隊」
ご近所マーケットプロジェクト
担当：森（TEL 080-3520-6335）

街角の女性 村上亜沙美さん（村上製本）

——製本って、どういうことをしているの？

2020年の夏から、みかわやにて製本・デザイン・本の修復などを行っている村上亜沙美さん。依頼者の要望に合わせた本の制作を一冊から行っている。「街の人たちと関わりながら、この場所での製本を楽しんでいます。」と村上さんは語る。村上さんは高校卒業後、ロンドン芸術大学へ入学。製本とデザインを学んだ。帰国後、東京のブックデザイン会社に勤めたのち、フリーランスの製本家になった。

浜松に住み始めて1年半が経過した2019年の冬からみかわやの改装活動に参加し、自身の製本所をみかわやの一角に開いた。村上さんにとって、幼少期から本



は身近な存在であったという。「田舎育ちで同世代が少なかったので、本を読むことで新しい友達に会ったり、知らない世界に触れた気持ちになっていました。本が大好きだったため、自然と、本をつくる人になりたいと思っていました。」

——村上製本の「観察ノート」について教えてください。

村上製本が作っている「観察ノート」は機械で行う作業と手作業が組み合わさって作られている。ノートの背の部分は古布や着物のはぎれが使用されていて、お気に入りの柄を選ぶのはとてもワクワクする。「縦でも横でも使える真っ白なノートに、その人自身の言葉をそのまま書き綴ってもらえたらと思っています。」と村上さんは語る。



[インタビューを終えて] 村上さんと出会って約半年になる。みかわやの製本所で凛とした姿でお仕事をされている村上さん（憧れの眼差し）の元へ来ては、大学休学中の相談事などをよく聞いてもらったりした。今回改めてインタビューさせていただいて感じたのは、村上さんは自分が情熱を感じることに對してまっすぐ真摯でいるということ。そんな村上さんが制作された観察ノートに対するエピソードを聞いてとても感動した。これからより一層、自分の中に浮かんだ言葉やアイデアをノートに書き留めるのが楽しみになった。

*みかわやポッドキャストにて本インタビュー配信中（裏面参照）

話し手：村上亜沙美

London College of Communication（ロンドン芸術大学）Book Arts and Design卒業。2019年夏から「みかわや | コトバコ」の一角で製本所を営んでいる。

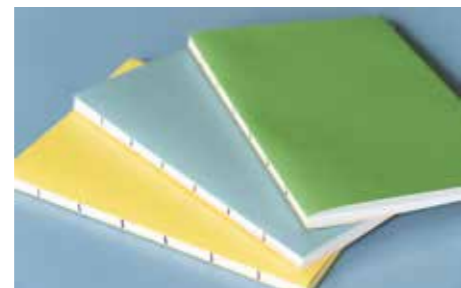
聞き手：今村理沙子

静岡文化芸術大学を現在休学中。編集やアートの分野でインターン経験。週末のみ営業のカレー屋&Curryを運営。

【街角製本展】

2021年1月12日（火）～30日（土）

昨年8月から12月、みかわやにて街角製本教室が行われてきた。参加した方は自分の手で一冊の本を作る楽しさや、本の仕組みを体験した。製本教室で作られた本は、2021年1月12日（火）～30日（土）に行われる街角製本展にて実際に見ることが可能。また、製本教室の様子をまとめた冊子の配布も行われる。



「街の空き家再生を」目指して

はじめまして、「みかわやコトバコ」管理人の一端です。かつての三河屋さんを借り受けてリノベーションを行い、複合店舗として事業者さんに貸し出す「家守」

を行っています。ぼくが空き家の再生に興味を持ったのは、4年前ほどのこと。当時のぼくは住宅雑誌をつくる仕事をしていて、新築住宅をたくさん取材していました。一方で、使われなくなった空き家は、使われないまま地域にひっそり放置されている。そのギャップに違和感を持ち始めた

のが活動のきっかけです。空き家問題はとても身近な社会問題であり、この街も例外ではありません。みかわやでの活動を通じて、この街の空き家・空き店舗が少しずつ再生されていくことを目指していますし、地域のみならず、まとも一緒に取り組んでいきたい

それにしても、振り返れば1年半以上、掃除や物件改修をしていたような？ 周りから見たら、得体的のしれない、あやしい集団だったかと思いますが、あたたかい目で見守ってください。街のみならず、今後はともどうぞよろしくお願いたします。

